

【R7年度設立50周年記念特別賞記念講演：11月28日（金）@住友会館（泉ガーデンタワー42階）】

地域連携を通して社会の創り手育成を目指す安全教育プログラムの開発
ー義務教育段階における授業実践を事例にー

愛媛大学教育学部 井上昌善
PC : inoue.masayoshi.xk@ehime-u.ac.jp

研究助成（2019）の成果と発展内容

【研究助成を受けた研究】

地域の安全を担う市民育成を目指す教育プログラムの開発



【主な成果と発展内容】

- ・GISを活用した教育プログラムの開発（ICT活用を通じた授業づくりの視点と方法の提案）
- ・地域連携を通して災害に強いまちづくりの担い手としての市民育成を目指す教育プログラムの開発（社会科や総合的な学習の時間の授業づくり・指導方法の提案）

【研究キーワード】

外部人材の活用、主権者教育、議論（熟議）、教材・授業開発、社会科教育



（1）本研究助成に基づく主な成果

【研究論文】

・井上昌善（2021）「外部人材の活用を通して社会的有用感の育成を目指す社会科授業構成：中学校社会科単元における外部人材に対する教師の働きかけに着目して」日本社会科教育学会『社会科教育研究』N0144, 12-26頁。（査読付）

【商業誌などへの掲載】

- ・井上昌善（2022）「GISを活用して地域の安全を担う市民育成を目指す教育プログラムの開発 —中学校社会科地理的分野単元『三津浜安全プロジェクト』を事例として—」一般社団法人日本交通安全教育普及協会『月刊誌交通安全教育』672巻, 6-15頁。
- ・井上昌善（2021）「地域社会における未来の担い手を育成 中学生が地域の危険な場所・安全を守る取り組みを調査！」ESRIジャパン株式会社『ArcGIS活用事例集Case Studies Vol.17 創造的な人材育成』28-29頁。

【受賞】

- ・2020年度地理情報システム学会賞受賞
井上昌善（2020）「GIS の活用を通して地域の安全を担う市民育成を目指す教育プログラムの開発」

（2）関連する主な研究成果

【研究論文】

- ・井上昌善（2024）「外部連携を通して市民性育成を目指す復興まちづくり学習 -被災地における小学校の総合的な学習の時間の単元開発を通して-」防災教育学会『防災教育学研究』4巻2号, 1-12頁。（査読付）
- ・井上昌善（2022）「エージェンシーの育成を目指す小学校社会科授業構成 -外部連携を通じた単元開発を事例として-」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』34号, 31-40頁。（査読付）
- ・井上昌善（2021）「外部人材と子どもの熟議を促す社会科授業構成の原理と方法：地理的分野『地域に届けるハザードマップ』の開発と実践を通して」全国社会科教育学会『社会科研究』95号, 1-12頁。（査読付）

【受賞】

- ・2022年度全国社会科教育学会研究奨励賞受賞
井上昌善（2021）「外部人材と子どもの熟議を促す社会科授業構成の原理と方法：地理的分野『地域に届けるハザードマップ』の開発と実践を通して」全国社会科教育学会『社会科研究』95号, 1-12頁。（査読付）

【関連する社会貢献活動（委員など）】

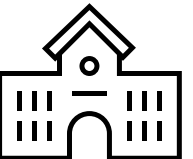
2023年7月～現在 西予市防災教育推進アドバイザー

2025年6月～現在 愛媛県教育委員会通学路安全推進委員会委員長

2025年6月～現在 西条市通学路安全対策アドバイザー

2025年6月～現在 砥部町通学路安全対策アドバイザー

2025年6月～現在 愛南町通学路安全対策アドバイザー



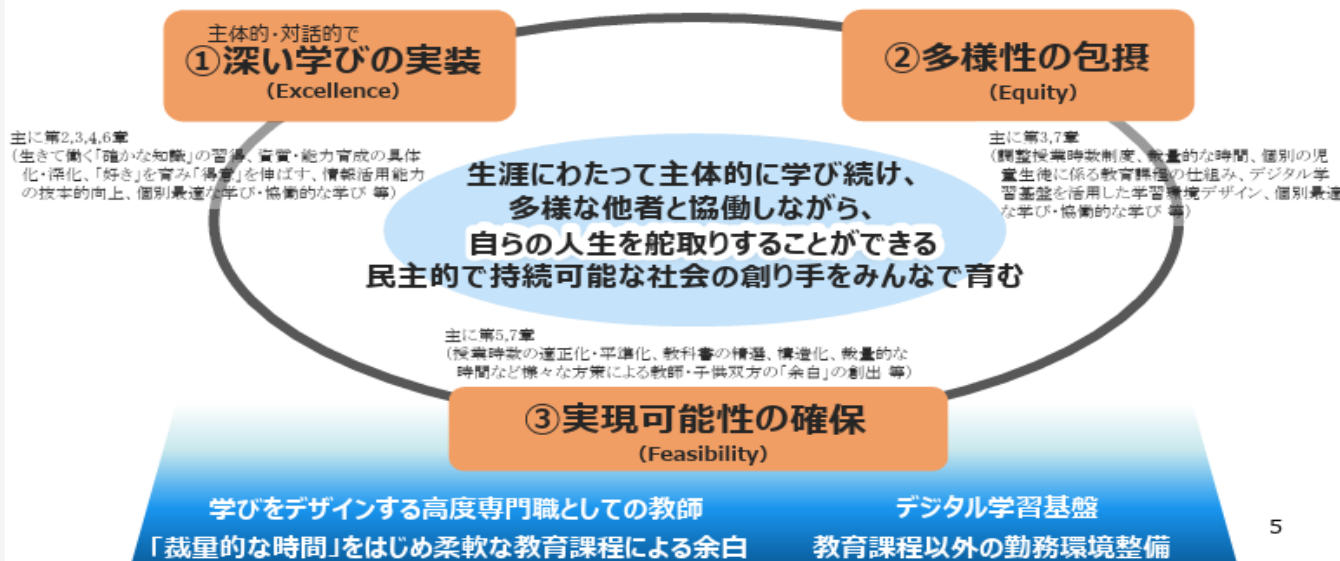
次期学習指導要領に向けた方向性

補足イメージ1-①

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化



5

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手育成

補足イメージ1-②

(今後の検討イメージ)

(文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理(素案)」令和7年9月5日教育課程企画特別部会資料1, 5頁)

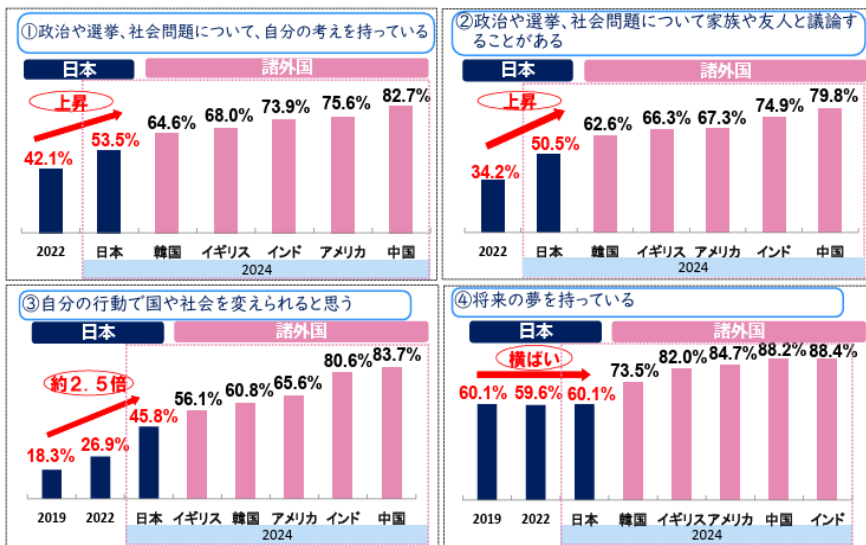
一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

(中央教育審議会(答申)【概要】「令和の日本型学校教育」の構築を目指して,令和3年1月26日)

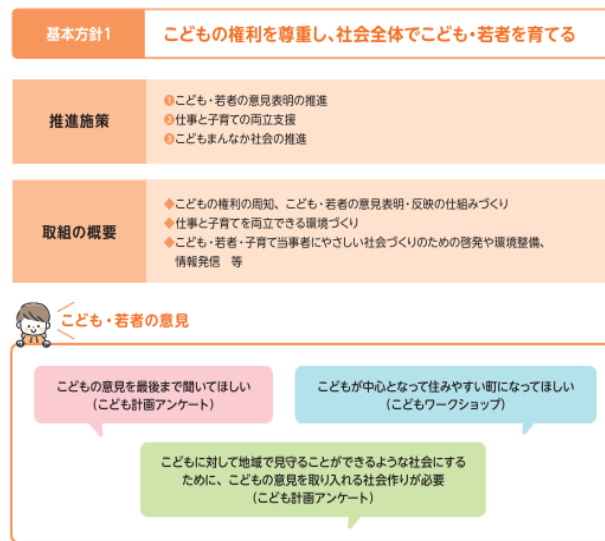
「こども」に対する見方の転換

若者の社会参画意識について

◆ 18歳の当事者意識は、上昇傾向にあるが、諸外国と比較して低水準である



(「令和7年10月23日教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ資料2「社会・地理歴史・公民に関する関連資料」18頁。)



(令和7年3月「松山市こども計画」概要4頁。)

○ 社会に影響を与える存在としての「こども」

「学習環境に肯定的な影響を与える可能性をもっていることだけではなく、それが政策立案者に新しい洞察を与えるかもしれない」

(A・オスラー／H・スターキー(著) 清田夏代 関芽(訳) (2009) 『シティズンシップと教育 変容する世界と市民性』勁草書房、75頁。)

○ 「学校の外での価値」に基づく授業設計

テストや入試を重視する学校内の価値を超えた「学校の外での価値」を重視した授業設計の必要性

(フレッド・M・ニューマン(著) 渡部竜也・堀田諭(訳) (2017) 『真正の学び／学力ー質の高い知をめぐる学校再建ー』春風社、38-39頁より)

こども・若者は社会づくりに参画できるという意識を持つことができる“場”の創出が課題
→自己と他者・社会との関わりに対する意味を見出す“授業”デザインの必要性

発表構成

1. 学校における安全教育の特質と課題
2. GISを活用した交通安全教育の授業実践
3. 今年度の交通安全教育の取り組み
4. 交通安全教育の意義と可能性

【参考】学校における安全教育とは！？

「学校における安全教育は、児童生徒等が安全に関する資質・能力を教科等横断的な視点で確実に育むことができるよう、自助、共助、公助の視点を適切に取り入れながら、地域の特性や児童生徒等の実情に応じて、各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し教育課程を編成することが重要である。」

<p>(1) 生活安全に関する内容 日常生活で起こる事件・事故の内容や発生原因、結果と安全確保の方法について理解し、安全に行動ができるようにする。</p>	<p>(2) 交通安全に関する内容 様々な交通場面における危険について理解し、安全な歩行、自転車・二輪車(自動二輪車及び原動機付自転車)等の利用ができるようにする。</p>	<p>(3) 災害安全に関する内容 様々な災害発生時における危険について理解し、正しい備えと適切な判断ができ、行動がとれるようにする。</p>
<p>①学校、家庭、地域等日常生活の様々な場面における危険の理解と安全な行動の仕方 ②通学路の危険と安全な登下校の仕方 ③事故発生時の通報と心肺蘇生法などの応急手当 ④誘拐や傷害などの犯罪に対する適切な行動の仕方など、学校や地域社会での犯罪被害の防止 ⑤スマートフォンやSNSの普及に伴うインターネットの利用による犯罪被害の防止と適切な利用の仕方 ⑥消防署や警察署など関係機関の働き</p> <p>(文部科学省 (2019) 「第二章学校における安全教育」29-30頁)</p>	<p>①道路の歩行や道路横断時の危険の理解と安全な行動の仕方 ②踏切での危険の理解と安全な行動の仕方 ③交通機関利用時の安全な行動 ④自転車の点検・整備と正しい乗り方 ⑤二輪車の特性の理解と安全な利用 ⑥自動車の特性の理解と自動車乗車時の安全な行動の仕方 ⑦交通法規の正しい理解と遵守 ⑧自転車利用時も含めた運転者の義務と責任についての理解 ⑨幼児、高齢者、障害のある人、傷病者等の交通安全に対する理解と配慮 ⑩安全な交通社会づくりの重要性の理解と積極的な参加・協力 ⑪車の自動運転化に伴う課題(運転者の責任)、運転中のスマートフォン使用の危険等の理解と安全な行動の仕方 ⑫消防署や警察署など関係機関の働き</p>	<p>①火災発生時における危険の理解と安全な行動の仕方 ②地震・津波発生時における危険の理解と安全な行動の仕方 ③火山活動による災害発生時の危険の理解と安全な行動の仕方 ④風水(雪)害、落雷等の気象災害及び土砂災害発生時における危険の理解と安全な行動の仕方 ⑤放射線の理解と原子力災害発生時の安全な行動の仕方 ⑥避難場所の役割についての理解 ⑦災害に関する情報の活用や災害に対する備えについての理解 ⑧地域の防災活動の理解と積極的な参加・協力 ⑨災害時における心のケア ⑩災害弱者や海外からの来訪者に対する配慮⑪防災情報の発信や避難体制の確保など、行政の働き ⑫消防署など関係機関の働き</p>

Ⅰ．学校における安全教育の特質と課題

(2) 交通安全に関する内容

様々な交通場面における危険について理解し、安全な歩行、自転車・二輪車（自動二輪車及び原動機付自転車）等の利用ができるようにする。

- ①道路の歩行や道路横断時の危険の理解と安全な行動の仕方
- ②踏切での危険の理解と安全な行動の仕方
- ③交通機関利用時の安全な行動
- ④自転車の点検・整備と正しい乗り方
- ⑤二輪車の特性の理解と安全な利用
- ⑥自動車の特性の理解と自動車乗車時の安全な行動の仕方
- ⑦交通法規の正しい理解と遵守
- ⑧自転車利用時も含めた運転者の義務と責任についての理解
- ⑨幼児、高齢者、障害のある人、傷病者等の交通安全に対する理解と配慮
- ⑩安全な交通社会づくりの重要性の理解と積極的な参加・協力
- ⑪車の自動運転化に伴う課題（運転者の責任）、運転中のスマートフォン使用の危険等の理解と安全な行動の仕方
- ⑫消防署や警察署など関係機関の働き

【特質】

- ・「自助」が重視された内容となっている。
(①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑪)
- ・「共助」(⑨・⑩)、「公助」(⑫)の内容は限定的である。

【課題】

- ・個人の安全行動の理解が重視された授業となる（特定の行動の一方的な強要を重視する指導になる可能性）
→「共助」や「公助」の観点から社会のあり方について考えさせる学習活動が軽視される可能性。

◎子ども自身が社会づくりに関与できる、社会に影響を与えることができるという社会参加意識を持つことができにくい内容編成になっているのではないか。

社会の創り手育成を目指す授業の学習原理

【目標】

地域社会の創り手の育成

→地域社会の課題を理解し他者と協働しながら解決方法を考える力の育成

【内容】

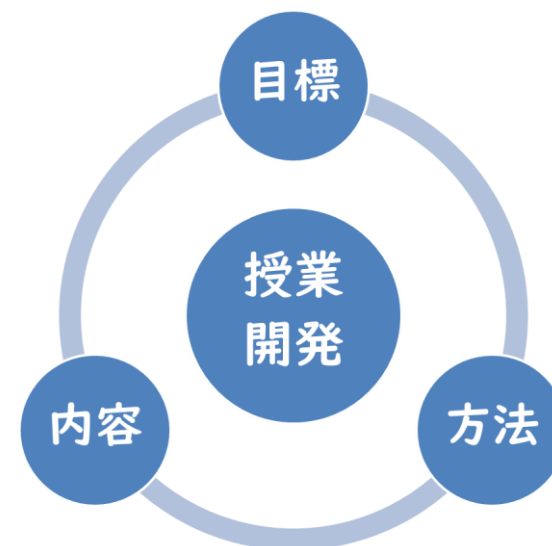
自己関与できる社会的課題の取組（仕組み・方法）

→学習の社会的意味の理解を通じた課題解決の担い手としての自覚化

【方法】

課題解決に関わる人たちとの対話

→問題意識の共有・課題の批判的検討



2. GISを活用した交通安全教育の授業実践ー公立中学校の場合ー

「三津浜安全プロジェクト」の実践（2020年1月14・15・17日に実施）

中学2年生約150名を対象（C日本の様々な地域（1）地域調査の手法と（4）地域の在り方を関連付けた学習）

【ご協力いただいた方々】

- ・愛媛大学教育学部の学生、esriジャパン、松山西警察署



Q 通学路の安全を守るためのものはどうやってつくられるの!?

【本単元の目標】

地域の危険な場所の特徴をふまえ、危険を防ぐための取組について多面的・多角的に考察することを通して、安全を守るための取組に対して自己が関わることができることに気付き、地域の安全を守るためにできることを地域住民として考えることができる。

【表1】 本単元「三津浜安全プロジェクト」の概要

	主な学習テーマ	主な学習内容
第一段階 課題把握	◎私たちが生活する身近な地域では、どのような場所で交通事故が多く起きている	○身近な地域の危険な場所の特徴について。
課	地域の危険な場所や安全対策の特徴について理解を深めたうえで、地域の安全を守るためにできることを考える授業モデルの提案	
第四時	防ぐための取組）が行われているのだろうか。	について。
第三段階 望ましい解決方法の構想 第五～六時	◎私たちが生活する身近な地域の安全を守るための取り組みをふまえて、私たちにできることを考えよう。	○危険を防ぐための取り組みを行う上で生じる課題やその解決方法について。



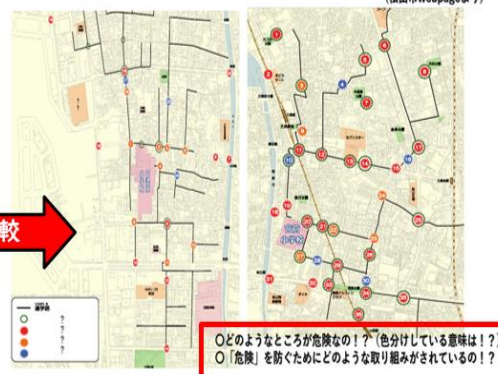
授業の実際①第一段階（第一時）

【学習課題】身近な地域の危険な場所の特徴を理解しよう。

- ①いつも登校している道を記入しよう！
- ②危ないと思う場所、危険を防ぐ工夫がされている場所を記入しよう！



小学生の調査結果を基に作られた交通安全マップをみてみよう！
(松山市webpageより)



- どのようなところが危険なの？（色分けしている意味は！）
- 「危険」を防ぐためにどのような取り組みがされているの？

予想・比較

【フィールドワークで調べてくること】

- 危険ポイント・エリアの様子・特徴（なぜ、その場所は危険なのか！）
- 危険を防ぐための工夫ポイント・エリア＝安全ポイントの様子・特徴（設置されているものはあるか！？なぜ、誰のために設置されているのか！）
- その他・気づいたこと
- ※各グループが担当する調査ポイントとエリアを確認すること！

いざ！フィールドワークへ！！

授業の実際② 第一段階（第二時・三時）

【学習課題】身近な地域の危険な場所の特徴を理解しよう。

①1クラス6班編成で担当のエリア（6エリア）を調査。

細い道が危険では！？

細い道は見通しが悪くなる！！

事故を防ぐためにどんな工夫がされているの！？

その工夫で十分なの！？

○同じ『とまれ』なのに違う表示になっている！！
『なぜ』、『どうして』！？



esriジャパンのアプリを活用したFWの実施

調査結果（危険ポイント・安全ポイント）を反映したデジタルマップ



- 【主な調査項目】
- 入力者、何組、何班、調査日時
 - 安全・危険ポイントの位置（緯度・経度情報）
 - その場所は安全ポイント？危険ポイント？
 - その理由
 - その場所の様子（写真）
 - その他気付いたこと



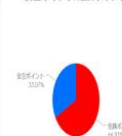
松山 実地調査しマッピング

(愛媛新聞2020年1月25日朝刊8面より)

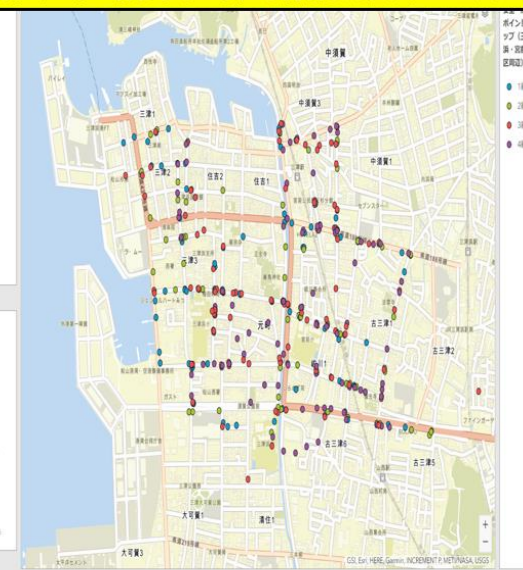
アプリ活用洗い出し

調査合計数
378

安全ポイント/危険ポイント

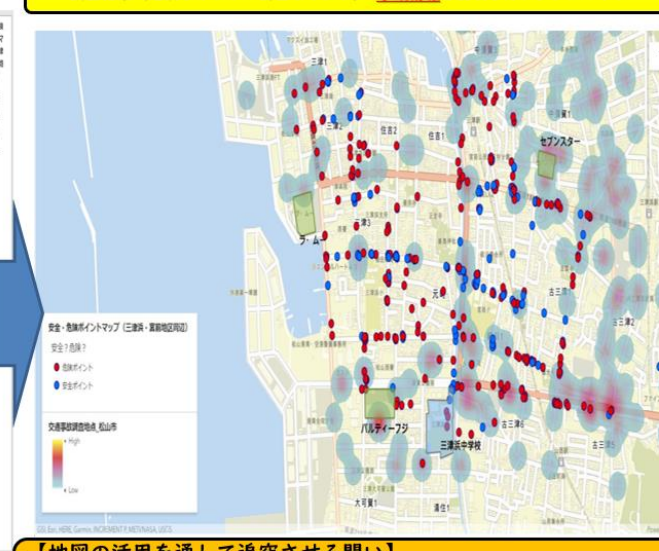
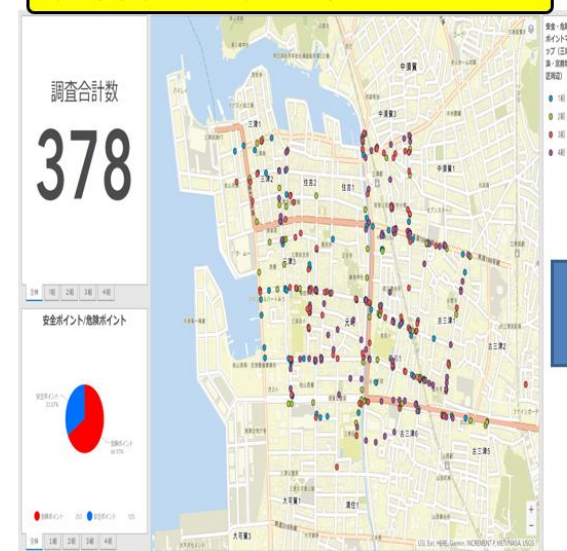


安全ポイント 30.7%
危険ポイント 69.3%



調査結果（危険ポイント・安全ポイント）を反映したデジタルマップ

調査結果（危険ポイント・安全ポイント）+事故情報を反映したデジタルマップ



【地図の活用を通して追究させる問い】

- 危険ポイントでは本当に事故は起きてるかな！？
- 実際に事故が起きている場所にはどんな特徴があるのかな！？

授業の実際② 第二段階（第四時）
【学習課題】身近な地域の危険な場所の特徴を調査しよう！

実際に事故が起きている場所はどんな特徴があるのかな！？

②交差点が広い
(車が横む、ジレンマ)

③交差点道路が斜めに交差、
停止線間距離が長い(約80m)

(松山市webpageより)

三津浜地区 宮前地区

○どのような事故が多い！？
○どのような目的で移動している人が事故に遭遇しているの！？

○三津浜・宮前地区の特徴は！？

【人口】
宮前：14759人
三津浜：5030人（平成31年2月）
【地区の場所】
宮前の方が中心市街地よりである。交通量が多い。

授業の実際④ 第二段階（第四時）
【学習課題】身近な地域の安全を守るためにどのような取組が行われているのだろうか？

通学路安全点検の実施、改善までの主な流れ

安全点検、改善の実施
松山市教育委員会
学校
保護者・地域住民
警察

○中学生であるみんなは、この上の図の中のどこに位置づくかな！？
○安全点検を実施、改善する中心は誰なのかな！？
◎「地域住民」、「学校で生活する中学生」である私たちにできることはないのかな！？

＊「まもるくんの警ら箱」は、現在、県下の駅や公園等約900箇所(H29.4現在)に設置しており、交通等の警察官や地域の方々が大活躍しています。
この箱の中には「査察票」を入れており、皆さんの意見や要望が自由に記入できるようになっています。
警察では、この施策を一步進め、変装の強い箇所に「警ら箱」を出前（設置）して、その周辺の治安を特に強化しようとするものです。（愛媛県警察webpageより）

授業の実際③ 第二段階（第四時）
【学習課題】身近な地域の安全を守るためにどのような取組が行われているのだろうか？

①安全を守るための取組（☆印の場所）の様子を確認する。

☆交差点マークの設置、カーブミラー交換
☆カーブミラーの大きさを変更！
☆交差点のマークを引き直す！
☆カーブミラーの位置を調整する！

☆水路にデリネーターを設置、水路の反対側に外側線を設置

「ハンプ」「クランク」「ドットライン」

○通学路の安全を守るためのものはどうやってつくれるの！？
誰が、どのような方法で設置することを決めているの！？

授業の実際④ 第三段階（第五・六時）
【学習課題】これまで学習してきたことをふまえて、地域の安全を守るために私たちができることを考えよう

①ハンプ設置に伴って生じる課題を探る。

○なぜ、この場所にハンプが設置できたの！？
○ハンプが設置されているのはどんな場所！？
○もし、家の前にハンプがあったら！？
○ハンプ設置に対する反対意見はなかったの！？
○地域の自治会や関係機関の合意によって設置が実現。

②課題解決の方法について検討する。

地域にはどのような人が生活しているのでしょうか！？

身近な地域の安全を守るためにはどんなことを考える必要があるのだろうか？

三津浜地区年齢別人口割合
宮前地区年齢別人口割合

◎様々な立場の人々の意見の『調整』が課題となる。

A評価の生徒のワークシートの記述内容

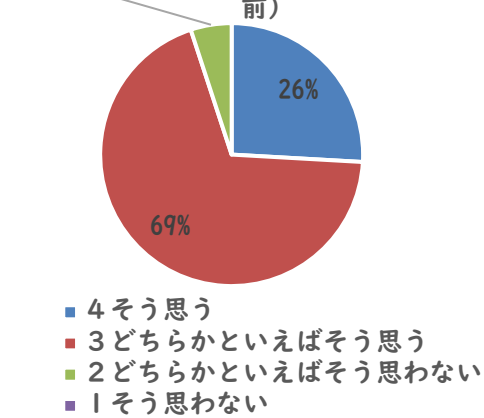
*Step0・Step3の学習課題：身近な地域の安全を守るために私たちにできることを考えよう。

*Step4の学習課題：「Step0」と {Step3} の自分の考えを比較して、新しく加わった点や気付いた点を書こう。

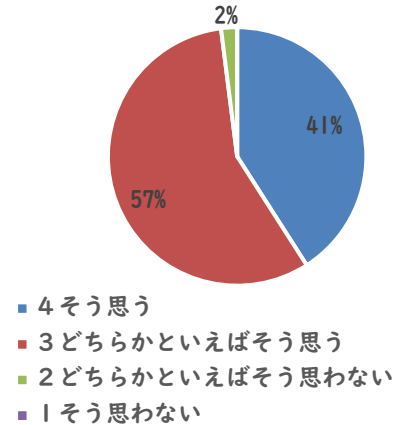
	A評価の生徒①
Step0 (単元前)	・(ア) <u>信号を守る</u> 。夜に一人でゲームセンターに行かない。ヘルメットを着用する。自転車が来た時に避ける。知らない人に合わない。横断歩道では赤は停まって青で進む。(原文ママ)
Step3 (単元後)	(イ) 私たちにできることは三津浜にも危険な場所はたくさんあるということを私たちだけが持つておくのではなく、 <u>地域の人たちに伝えていくことだと思います。伝える手段はたくさんあります。SNSを使う、地図を配る、ポスターにするなどありますが、お年寄りの方や体が不自由な方など地域にはたくさんの方が住んでいます。それではなかなか声を届かせられなかったという課題です。</u>
St (単元後)	<p>【生徒①の思考の特性】</p> <p>○危険な場所を発信することの必要性を感じている一方で、<u>多様な立場の人たちに伝わるような情報の発信の方法が課題となること</u>に気付いている</p> <p>○<u>地域の安全を守るという課題解決のために、情報を発信する主体(市民)として関わるができること</u>に気付いており、<u>多様な地域住民の立場をふまえて自分たちができること</u>を考え、行動することの重要性について理解を深めている</p> <p><u>「みんな」が安心安全で暮らすことができるよう、私たちができることを行動に移していきたい</u>と思います。(原文ママ)</p>

アンケート結果（N=35）に基づく教育的効果の検討

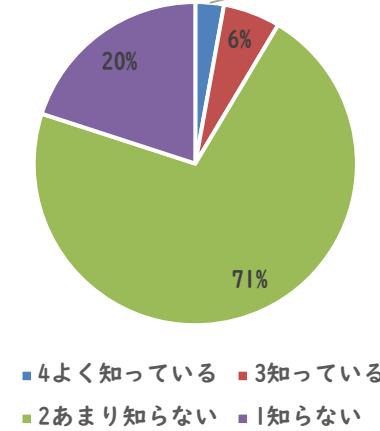
①あなたは社会のために役立つことをしたいと思いますか？（授業前）



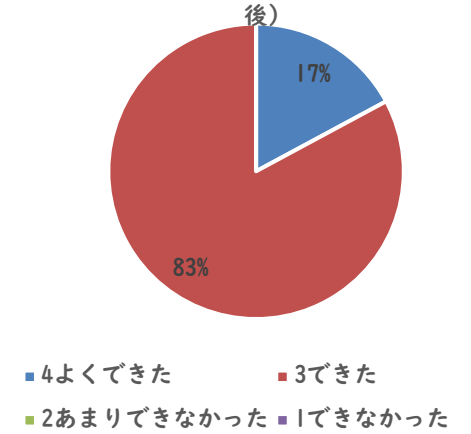
①あなたは社会に役立つことをしたいと思いますか？（授業後）



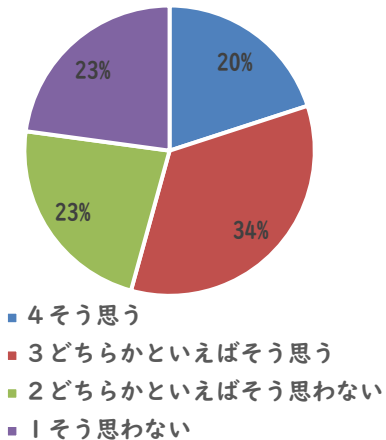
③あなたは、社会をよくするための具体的な方法について知っていますか？（授業前）



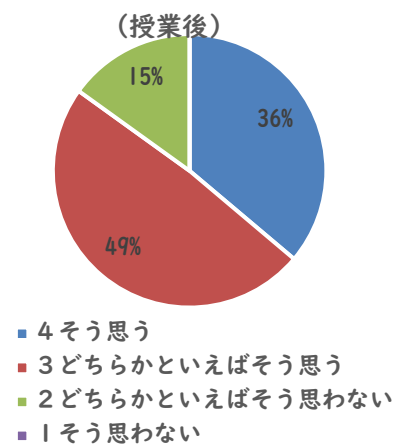
③あなたは社会をよくするための具体的な方法を知ることができましたか？（授業後）



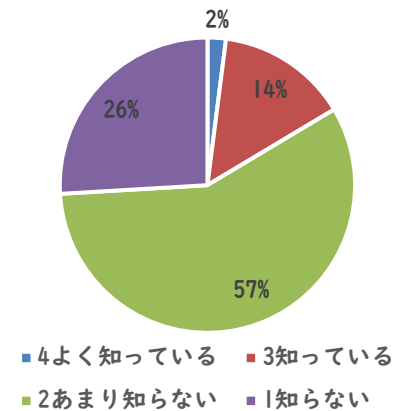
②あなたは社会をよりよくすることができると思いますか？（授業前）



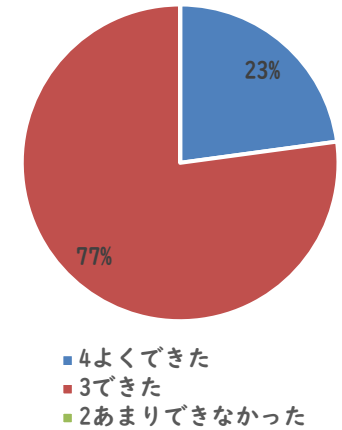
②あなたは社会をよりよくすることができますか？（授業後）



④あなたは社会をよくするために情報を適切に活用する方法について知っていますか？（授業前）



④あなたは社会をよくするために情報を適切に活用する方法について知る事ができましたか？（授業後）



授業前後のアンケート結果を比較すると、①～④のどの項目の割合の数値も向上している。このことから、本単元の学習を通して、多くの生徒は自己肯定感や自己効力感及び自己有用感を高め、社会参画意識を醸成することができていると言える。

3. 今年度の交通安全教育の授業実践

◎愛媛県内の愛南町、砥部町、西条市がモデル地域（通学路交通安全プログラムの実践地域）

→下記の学校・日程で交通安全教室（出前授業）を実施

（愛南町立平城小学校第5学年）

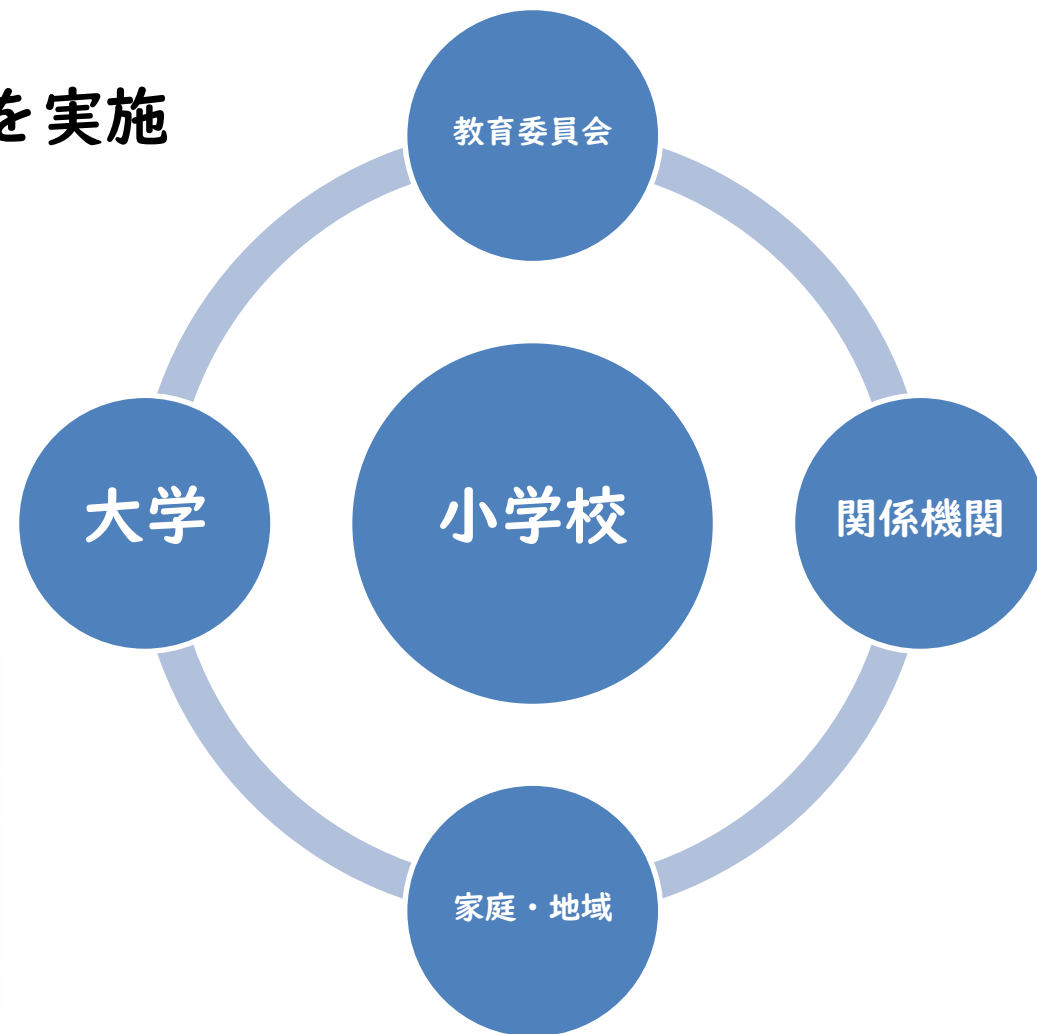
7月10日、10月30日

（砥部町立砥部小学校第6学年）

10月27日

（西条市立中川小学校第6学年）

9月30日、10月21日、12月16日



西条市立中川小学校授業の概要①（9月30日）

通学路が良くなるまでの流れ

- ▶ 通学路で危ないところはないか見る
- ↓
- ▶ 危ないので直してほしいと学校が市役所（学校担当）へ連絡
- ↓
- ▶ 市役所が警察、道路管理者らに連絡
- ↓
- ▶ 警察や道路管理者らが現地点検
- ↓
- ▶ 対策

危険箇所 県道②（関屋交差点）対策（案）



危険箇所 県道②（関屋交差点）対策後



これまでのみんなの取り組みの意味！！

学 校 教育関係団体	<ul style="list-style-type: none">○ こどもと保護者が一緒に学ぶ参加・体験・実践型の交通安全教室等の開催による歩行中の安全な通行方法や自転車の安全利用等の基本的な交通ルール・マナーの教育を図るとともに、地域の交通安全啓発活動への参加を促進する。○ 保護者等を交えた交通安全総点検、ヒヤリ地図の作成等によるこどもの目線から見た通学路等における危険箇所の把握と解消に努める。○ 自転車乗車用ヘルメットの着用やシートベルト・チャイルドシートの着用の徹底及び正しい使用方法について指導する。
---------------	--

（えひめ交通安全のひろば（7年9月号） - 愛媛県庁公式ホームページ）

みんなの取り組みによって、地域の安全が高まる！！
地域のためになる学びを行っている！！

- ①子どもたちによる危険箇所の調査・改善要望の表明
- ②改善までのプロセス・改善状況の確認
- ③交通安全について考える授業の意味の理解

中川小学校授業の概要②（10月21日）

学習課題（めあて）地域の安全を守るために必要な情報について考えよう！

めあて 地域の安全を守るために必要な情報について考えよう！

〈授業前〉

- ・昔の事故が起きたところ
- ・野生の動物がでるところ
- ・白線が消えかかっているところ
- ・危険の旗

デジタルマップ

- ・危険箇所 年れい
- ・理由 だれか
- ・対策の状況 天候
- だれが？どのように？ 日時、曜日
- ・死者数
- ・場所

〈みんなが考える重要な情報〉

- ・年れい ……自分がその年だと気をつけるから。
- ・天候 ……道の状況を知らせられる。
- ・死者数 ……事故のひどさを知らせることが大事だから
- ・時間 ……自分も気をつけられる。
- ・場所 ……気をつけないといけないと思うから。
- ・スピード ……事故の要因だから。
どれくらいスピードをだしたら危険かわかる。

①導入：予想したことを発表する。

②展開：デジタルマップに掲載されている危険箇所・安全対策の情報を読み取る。①の確からしさを検証する。

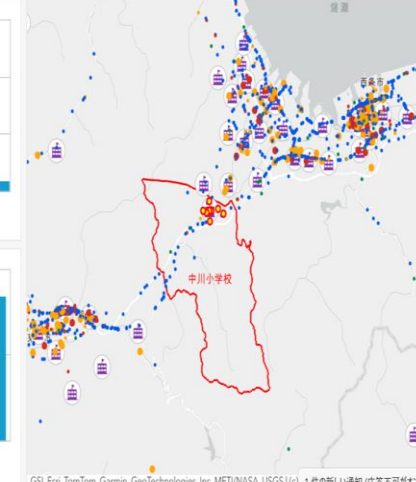
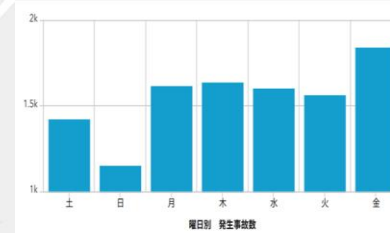
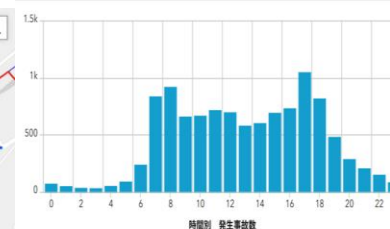
③整理：意見交換した結果をまとめる。

（2025年10月21日西条市立中川小学校出前授業より）

デジタルマップの活用場面



番号	追加3
危険箇所の位置	閑屋交差点・横断歩道（壬生川丹原線との交差点）
区分	交通
危険箇所として選定した理由	青信号の時間が短く渡り切るのが難しいので青信号の時間を延長して欲しい。草や葉がかなり生えており、通学路に危険である。車が止まるように路面標示や看板設置など対応が必要。
対策状況	【現状】 ・信号の時間の延長の検討 ※朝の通学の時間だけでも、16秒を20秒程度にすることを検討 【策進管理】 ・標識や看板設置、路面標示の検討 ・通学路の除草作業（対応済）

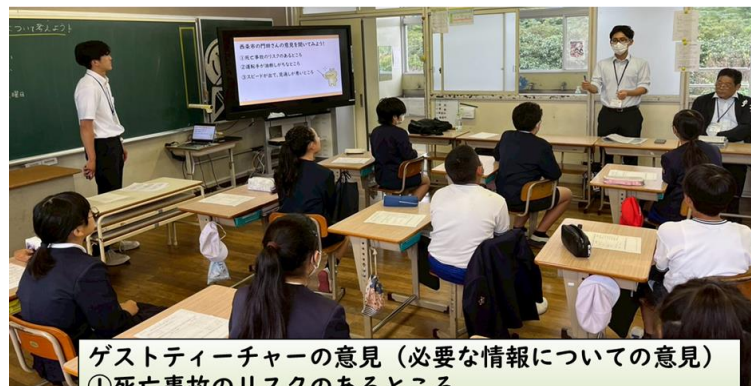


②展開：デジタルマップに掲載されている情報を読み取る。

→「危険箇所として設定した理由」、「対策状況」を確認することにより、警察や道路管理者などさまざまな立場の人たちが地域の安全にかかわってくれていることに気づいていった。

→「時間別発生事故数」、「曜日別発生事故数」のグラフの読み取りを通して、事故の発生要因について意欲的に追究しようとする意識の高まりがみられた。

ゲストティーチャー（外部人材）などとの意見交換



ゲストティーチャーの意見（必要な情報についての意見）

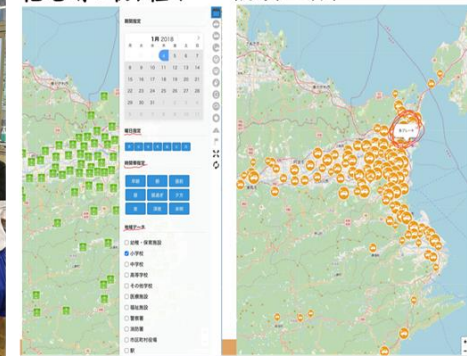
- ①死亡事故のリスクのあるところ
- ②運転手が油断しがちなところ
- ③スピードが出て、見通しが悪いところ

改めて自分の意見を考える学習活動へ

他地域の取り組みを学ぶ



他地域の取り組み（徳島県の場合）



他地域の取り組み（徳島県警察交通安全デジタルマップ）

→「期間指定」、「曜日指定」、「時間帯指定」、「地域データ」、「事故類型・要因（急加速・衝突・スマホ使用、ふらつきなど）」などが確認できる。

→地域によって、公開されている情報は決まっていないことに気づく。

生活体験に基づく主観的な判断



事故の発生要因に関わる情報に基づく客観的な判断

授業後は、事故の発生要因に関わる情報（目に見えない情報）を重視して判断している傾向にある。また、複数の視点から考え関連付けることの重要性に気づくようになっている子どもの存在も確認できる。

デジタルマップを見て交通事故の原因や危険箇所などを確認する児童ら



事故の原因 どこに潜む？

西条・中川小 事例マップ使い確認



西条市丹原町来見の中川小学校で21日、デジタルマップを使った交通安全教室があり、6年生13人が地図上で事故が発生した場所や原因を確認し、通学路の安全対策などを考えた。

県が児童の安全意識向上を目的に取り組むモデル事業の一環。デジタルマップには県内で実際に起きた交通事故がまとめられており、発生時間や天候、道路の形状や信号機の有無などを見ることが出来る。愛媛大教育学部の井上昌善准教授とソフトウェア販売「ESRIジャパン」(東京)が、県警の協力を受けて作成した。21日は愛媛大3年森田諒さん(20)が、マップに記された事例について原因などを問いつけながら説明。児童は情報を読み取り、自分たちの住む地域に当てはめて、事故が起きないようにするために必要なことを発表した。

伊藤秀さん(12)は、車を運転する人の年齢と走行速度が事故に関係しているとし「地域には高齢者も多いので、周囲をよく見渡して通学したい」と気を引き締めていた。森田さんは「児童には、教室で学んだことや地域で気になる危険箇所を家族や友達に積極的に伝えて意識を高めてほしい」と話した。

(伊藤義樹)

(2025年10月25日愛媛新聞朝刊地域二面より)

【教員志望学生による出前授業】
自己の交通安全意識の高まり＋交通安全教育を担当する教師に求められる授業実践力の向上

2025年12月16日に小学生による学習成果報告会を開催予定

【参考】砥部町立砥部小学校の授業概要



①地域のFW（危険箇所の調査）

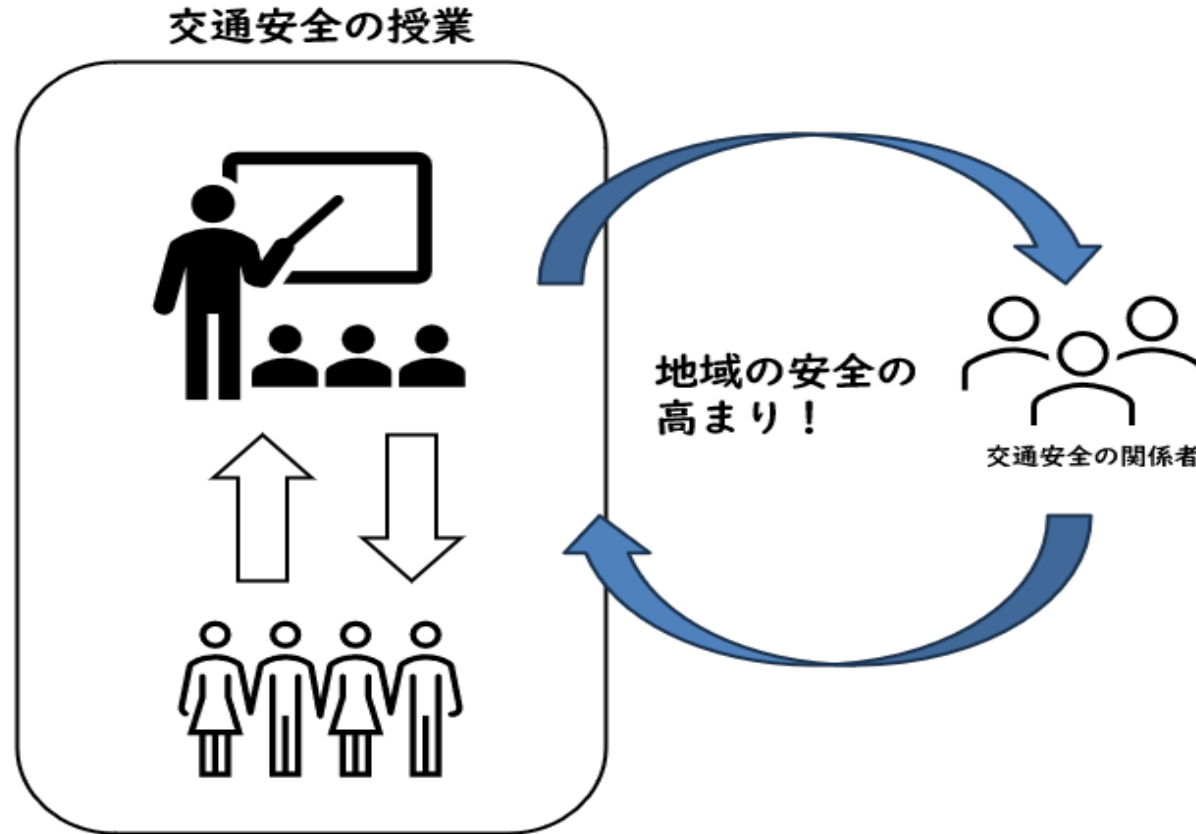


②FWの結果をまとめる。改善してほしいことを提案する。



③関係者からフィードバックをもらう。

4. 交通安全教育の意義と可能性



- ◎子どもの意見を反映することにより、地域の安全を守りさらに高めることにつながる。（地域社会）
- ◎自分たちの提案が社会づくりにいかされるという実感を通して地域への愛着が高まり、社会参加意識が形成され、社会の創り手としての資質を高めることにつながる。（学校）

ご清聴ありがとうございました。

みなさまとの出会いに感謝いたします。